

水遊びマニュアル

(株) チャイルドケアサポート
トータス保育園
令和5年12月

プールについて

トータス保育園では、夏季、多くの園児がオムツを着用しているため、基本的にプールには浸からない。

水遊びについて

1.水遊びの目的

手や足、体で水に触れ感触や心地良さを楽しむ。

2.活動実施の判断

以下の1つでも当てはまる場合は中止とする。

- 雨天、強風、雷が鳴ったとき
- 光化学スモッグ警報発令のとき
- PM2.5の注意喚起のとき
- 暑さ(熱中症)指数が危険(31以上)、または熱中症警戒アラートが発表された場合
- 土、砂などによる汚染が著しいとき
- 職員の人数上十分な監視体制が確保できない場合
- その他、子どもの安全を最優先に考えて判断する。

3.個別の実施可否

- 保護者からの連絡帳を通じ、当日朝確認する。(記入漏れの場合は基本行わない)
- 保護者が水遊び可としていても、園にて園児の様子や体調を考慮して判断する。以下の場合原則として見合わせる。
 - 虫パッチや絆創膏を貼っている場合。
 - 体温が高い場合(37.5℃以上)。
 - 鼻水や咳が多く出ている場合。
 - 腹痛や下痢をしている場合。
 - 目ヤニや充血、目の腫れがある場合。
 - 湿疹や化膿した傷がある場合。

4.水遊びのタイムスケジュールについて

- 水遊びのタイムスケジュールは、園児数や構成等を加味し、職員間で話し合い決めていく。
- 子どもの様子や気温などによっては、遊ぶ時間を調整するなど臨機応変に対応する。

5.準備・安全や衛生の確保

- タライやベビーバスなどを出して行う。
- 水温と気温を足して50℃以上を実施の目安とする。塩素消毒はしない。
- タライやベビーバス内、テラスは常に整理整頓、清掃し危険物や障害物がないよう注意する。※子どもの転倒に十分注意する。
- 破損しているタライやベビーバス、玩具は取り除く。
- 各クラス使用後のタライやベビーバスの水は全て入れ換える。消毒はしなくてよい。

6.園児への配慮

- 保護者に水遊びの時期には再度健康状態(熱、咳、下痢、目の充血など)、皮膚の状態(とびひ、水イボがつぶ)

れていないかなど)、爪の状態などを確認してもらう。

- 水遊びをする前後、子どもの人数確認をする。
- 園児に水遊びの際の約束を伝える。
 - 濡れているテラスは歩く ●タライやベビーバスの中に入らず、外から遊ぶ
 - タライやベビーバスの水を飲まない ●水分補給をする
- 活動前中後、水分補給をこまめに行う。

7.活動後

- 園児の怪我や健康状態の変化に配慮する。
- 濡れた体は冷えやすいため、室温に留意する。

8.職員の注意事項

- 浅い水深であっても溺死するリスクがあることを職員全員が理解する。
- 事前に子どもの健康状態(熱、感染症、湿疹、内服などの有無)や爪の状態、保護者の水遊び可否を確認する。
- 職員の体制が整っているか確認し、役割分担を明確にする。(必ず2名以上の職員で行う)
- 一斉に活動する園児数は、年齢や活動の様子、職員の人数などを踏まえて考慮する。
- 持ち場を離れる時は、必ず他の職員に声を掛け了解をとる。代わりに他の職員が入る。
- 子どもから絶対に目を離さない。
- なるべく日陰で活動する。またはサンシェード等日よけ対策を行う。
- 活動中の園児及び職員の体調変化には十分配慮する。
- 一刻を争う状況にも対処できるよう、119番通報を含め緊急事態への対応を共有・訓練しておく。
- 最後に衣服を脱ぎシャワーをするときは、人目につかないよう目隠しの中で行う。
- 水遊び日誌をつける。

*水遊びを行う場合に、子どもの安全を最優先するという認識を職員全員で持つ。